

週報

2024年度 教会標語

「主につながり、その枝としてひろげて」

<先週の説教から>

『ルカ ⑨ — 先祖からの約束に答えて』

武田 真治 牧師

エレミヤ書 33:14-16 ルカ福音書 1:51-66

ルカ福音書では、最初に讃美歌を歌った人物はマリアさんと記されています。ただ、この見方には異論がなくもないのです。それは、まだイエス様も生まれておらず、弟子たちも集められていないのにマリアの歌を“讃美歌”と言い得るのか？ そもそもマリアさんはクリスチャンであったのか？

確かに、イエス様が地上で伝道活動を為された期間、マリアさんはイエス様の弟子になったという記載は残っていません。しかし、イエス様が復活され昇天なされた後、エルサレムで弟子たちが集まっていた中には、マリアさんも居たのです。即ち「彼らは都に入ると家の上の部屋に上がった。それは、ペトロ、ヨハネ、ヤコブ～(=12弟子)であった。彼らは皆、婦人たちやイエスの母マリア。またイエスの兄弟たちと心を合わせて熱心に祈っていた」(=使徒言行録1章13~14節)とあります。この集まりの上に次の2章で《聖霊が降り》、この世に“教会”が誕生したのでした。その創立メンバーにマリアさんも入っていたことが分かるのです。

実は、これこそイエス様が本当に復活されたことの証拠にもなっているのです。なぜなら、イエス様が十字架に架かって死なれて、それで終わりであったならば、マリアさんはただ絶望し、悲嘆の内に故郷のナザレに戻って旧来の生活を続けるしかなかったでしょう。しかし、マリアさんだけでなくイエス様の弟や妹たちもその群れに加わっているということ自体、彼らはイエス様の弟子として新しい歩みを始めていたことが分かります。イエス様を家族の一人から“拝める”存在と見做すようになるためには、余程大きな変化がなければなりません。そこには“イエス様の復活と昇天”を目の当たりにしたからこそと言い得るのではないのでしょうか。

少なくともマリアさんが信仰者になっていたことは事実です。そして想定されていることは、後の教会の礼拝等で、マリアさんが信者として、イエス様のことを語ることや証し

を求められることがとても多かったと考えられます。その際、彼女は、自分が最初の受胎告知を受けた時の思いから始めて語ったことでしょう。そしてその思いを“讃美歌”へとまとめて行ったと。それが、後に福音書に納められたのだと。

ここで「主は思い上がる者を打ち散らし、権力ある者を引き降ろし、身分の低い者を高く上げ、飢えた者を良い物で満たし、憐れみをお忘れになりません」と賛美されている言葉は、彼女だけのことではなく、キリスト教の信仰をよく表しています。実際、この歌が後の教会で女性達をととても励ますことになりました。旧約聖書の時代は男性だけしか会堂に入れませんでしたが、新約の教会は女性も男性も一緒に礼拝するようになりました。それは、マリアさんの存在と彼女が最初に讃美歌を歌った事実が強く影響を与えているのです！

【今週の集会】

*聖書研究・祈祷会 I. 4月24(水) 20:00
II. 4月25(木) 10:30

聖書: ハイデルベルグ信仰問答

祈祷主題: 教会総会を覚えて

担当者: (水) 小草 (木) 圓谷

祈りに覚える人: 相浦さん 浅井さん

*ひつじ雲の会 4月23日(火) 13:30~

【教勢報告】

主日礼拝 男20 女52 計72
祈祷会 I. 男5 女3 計8 II. 男1 女9 計10
日曜学校 幼稚科5 小中科14 計19
ハンナの会(4月16日(火)) 男1 女8 計9

【次週主日礼拝】 4月28日(日)

聖書: 詩編 42:1~14

ヨハネによる福音書 7:37~39

説教: 「詩編 ④ — 私の魂は渴(かわ)く」

武田 真治牧師

讃美歌: 18(1)、32、57、132、432、88(1)

【次週当番表】

司式: 金刺長老 奏楽: 中村 礼拝: 茨木長老

献金: 小草 柿澤 受付: 金刺 坂田

会堂準備: 大野 勝村 黒澤 鶴巻

西尾

看板: 中村 週報: 飯島 お花: 飯島

【次週集会予定】

礼拝前: ・求道者会 ・聖書輪読会

礼拝後: ・教会総会

2024年 4月 21日

日本キリスト教団 上尾合同教会

牧師 武田 真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33

TEL&FAX 048-771-6549

<http://www.ageo-church.org/>